

令和元年度第1回子ども・子育て会議(7/31)における委員からの主な発言等

(1) 福島県ひとり親家庭等自立支援計画(第4次)の策定について

No.	氏名	項目	発言内容	県側回答
1	福島学院大学 日下 輝美	人権尊重	・ひとり親家庭となった場合、人権、差別、偏見等あると思うので、具体的な取組の柱として「人権尊重の社会づくり」が必要。	頂いた御意見を今後、懇談会の中でも御審議頂きながら進めてまいります。
2	福島県認定こども園協会 古渡 一秀	適時適切な情報提供・相談	・ひとり親家庭になる前の段階での情報提供や相談が重要であり、相談や手続き等へ迅速に対応できる体制・仕組みづくりが必要。	少しでもタイムラグが無い形で支援を受けられることを新たな視点として盛り込んでいくことについては、意見を伺いながら検討したい。
3	同上	貧困との関連	・ひとり親家庭と貧困問題は密接に関連しており、その関係を明確にして計画を策定する必要がある。	貧困とひとり親家庭の部分は、大変密接な重要な課題と考えており、子ども夢プランの中で一体的な形で進めていきたい。

(2) ふくしま新生子ども夢プラン次期計画の策定について

No.	氏名	項目	発言内容	県側回答
1	福島県私立幼稚園・認定こども園PTA連合会 伊藤 順朗	家庭内養育者に対する支援	・0、1、2歳の子を家庭内で養育しようとしている親に対する支援が薄い。 ・3歳になるまで家庭内で養育しようとする家庭が3歳になってから幼稚園に入れようとする、希望する幼稚園に入園することができていない。	小規模保育、家庭的保育で0、1、2歳を対象とした国の制度の中の給付等を行っているが、なかなか0、1、2歳の待機児童を減らすところまで届いていないというのが実態である。家庭の中で保育している方への支援については、県としても問題意識を持って今後検討していきたいと考えている。
2	同上	多子世帯への支援	・子育て世帯への細やかな支援(病院に行くときに公共交通機関やタクシー等の利用支援)があれば、2人目から3人目の壁が少し低くなるかなと感じている。	現在、多子世帯への支援は、保育料減免等で対応しているところであるが、その他様々な方策についても、併せて検討していきたいと考えている。
3	福島県町村会 高橋 宏典	住宅環境支援	・経済的な支援を求める声は多いが、少子化は経済的な面だけの問題とはいえないのでは。例えば、住宅等の環境支援も生活を支える大事な場である。	
4	同上	子どもへの教育	・郷土愛や子育て等に関して、小さい頃からの子どもへの教育が非常に大切。	
5	社会福祉法人福島県社会福祉協議会 熊川 恵子	幼少期の健診受診率	・避難先でも幼少期の健診受診率が100%近くになるような対応が必要。 ・支援が必要な人が支援を受けられるように、行政同士の連携が重要。	避難先市町村の保健師が支援を行っているが、そこでの支援が足りない場合、県の保健福祉事務所の保健師・相談員等が訪問しいろいろな働きかけや相談対応等を行っている。引き続き、県の保健福祉事務所で支援に努めてまいります。
6	福島県民生児童委員協議会 古関 久美子	児童虐待	・児童虐待はなかなか解決しない形が多いので、弁護士の配置又はそれに準じる措置、医師及び保健師の配置について出来るだけ早期に進めてほしい。	弁護士については、現在でも随時、児童相談所の中で様々な困難な案件について、相談に対応できる体制はとっている。より一層の専門性の強化に当たり、保健師等の配置についても今後検討しながら進めていきたい。

令和元年度第1回子ども・子育て会議(7/31)における委員からの主な発言等

No.	氏名	項目	発言内容	県側回答
7	一般社団法人福島県助産師会 小谷 寿美恵	妊娠・出産・子育てについての普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>理想的な人数の子どもを持っていない理由で「子育ての精神的・肉体的負担が大きいから」が多い。</li> <li>子育てをする幸せな姿を見る機会だとか、2人、3人の子育てをしたという経験を聞く機会など、若い人に提供することが必要。</li> </ul>	各市町村の子育て世代包括支援センターにおいて各世帯への知識普及等や妊娠された方へのケアなどを行っている。また、市町村の子育て世代包括支援センターの所掌以外の部分については、県としては県の保健師による市町村への啓発等に努めてもらっているところである。
8	福島県認定こども園協会 古渡 一秀	女性の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>県として、女性のライフスタイルに対する明確な方向が見えていない。</li> <li>女性は、出産など様々な負担感がある。子育てに関する孤立感を感じている。お母さん達の孤立孤独化をどう解消していくのかを各地域の支援センターなどの全体像で考えなくてはいけない。</li> </ul>	
9	同上	災害時の居場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の各施設の子どもの居場所、弱い立場の視点、子どもを持つ親の居場所が大事。</li> <li>災害時に子どもの居場所をしっかりと確保出来たというのは、対応の中で大きな成果だったと聞いている。</li> </ul>	(当日、県担当部署が出席していなかったため、後日、確認した内容) 県地域防災計画において、避難所での生活の長期化が見込まれる場合の対策として、女性専用ルームや相談ルーム、児童生徒の学習場所の設置など、避難者に配慮した環境作りに努めることとしている。
10	NPO法人しらかわ市民活動支援会 樋口 葉子	広域での取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題がここ数年出ている中で、市町村単位での施策では間に合わない。</li> <li>子育て支援に関しても広域的に連携できるようにしていけば、子育てしている方達にとって恩恵があるのでは。</li> </ul>	
11	福島県市長会 菅野 康祐	ファミたんカード	ファミたんカードの協賛店の達成率がDとなっているが、平成31年度は目標値を達成してほしい。	
12	福島県私立幼稚園・認定こども園PTA連合会 伊藤 順朗	認定こども園	認定こども園が増えている中で、保育士のみならず保育教諭や幼稚園教諭等についても支援を拡充して頂きたい。	
13	公益社団法人福島県私立幼稚園・認定こども園連合会 安齊 悦子	現場の人手不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場の人出不足が全ての施策に影響を及ぼしている。誇りを持って仕事をしている保育士も、日々に余裕がない現状である。</li> <li>保育士の配置基準など、現行の制度でいいのかというところを検討する必要がある。</li> </ul>	
14	同上	計画のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>上位計画と個別計画の関係性の中で、個別計画は下から吸い上げて策定するが、計画が出来てしまうと上位計画からおりてくるイメージがある。</li> <li>計画を進めていくに当たっては、この流れを逆にするような意識改革が必要である。</li> </ul>	
15	福島県保育協議会 宮内 隆光	取組の成果の見せ方	<ul style="list-style-type: none"> <li>待機児童数は0になっておらず目標を達成できていないが、施設の数自体は増えており、受け入れ児童数も増えている。</li> <li>努力が目に見える形になるような指標の目標値設定をすれば、仕事にやりがいも出るのでは。</li> </ul>	